平成25年度　北信越地区審判講習会　報告書

南支部審判委員　若井高志

標記講習会に参加しましたので概要を報告いたします。

1　主　　催　北信越地区高等学校野球連盟
2　主　　管　福井県高等学校野球連盟
3　日　　時　平成25年5月18日（土）12：30～21：30
　　5月19日（日）08：20～13：10
4　場　　所　福井県営球場
5　講　　師　（公財）日本高等学校野球連盟派遣講師4名
　　赤井淳二先生　堅田外司昭先生　大槻康彦先生　土井淳弘先生
6　補助講師　平成25年度の全国審判講習会に参加した各県審判員　計5名
7　受 講 者　長野・新潟・富山・石川　各4名　福井16名　計32名
8　ﾓﾃﾞﾙﾁｰﾑ　福井工業大学付属福井高等学校・福井商業高等学校
　　北陸高等学校・敦賀気比高等学校
9　概　　要　下記のとおりメモしたものを箇条書きにまとめました。

5月18日（土）
【球場での実技】
・主役は選手。人生の先輩として正しい判定で試合を進行する。そのために講習会を行う。
・基本が大切。おろそかにすると人間そのものが腐ってしまうし、ジャッジが崩れる。
・判定を身体で表す。大きく張りがある声とゼスチャを心がけること。
・漠然とやるのではなく、際どいプレーを意識しながらアウト、セーフの判定練習をする。
・塁審のセットポジションの目線は、マスクをつけているときと同じ。そうすれば目線は下がらない。
・プレーを見た瞬間は1次判定。上体を起こしながら確認して最終判断する。
　→立ち上がってからゼスチャー。アウトなら拳、セーフなら指先に力をこめて力強く声を出す。
1塁塁審
・ホームへのカバーのスタートは走者が勢い良く2塁を回った時。
　打者走者の1塁触塁をチラ見で確認してホームへダッシュ。
・走者1塁でエンドラン→ホームへ向かいながら触塁を確認する。（間に合わない恐れ）
・セカンドライナー→捕球を確認したら球審を見てから「ザッツアキャッチ」。
　（球審が出しそうなら引く）
・ショートバウンドなら「ノーキャッチ」を出してから1塁の判定。
2塁塁審

・ランナー1,2塁でセンターフライ、3塁塁審ゴーアウト→3塁へスライドし2塁走者のタッグアップを確認して3塁でのプレイを待ち受ける。
ストライクゾーン
・打つ瞬間の姿勢で判断。
・高めはトップショルダーとトップベルトの中間。
・低めはピッチャー側の膝の下部
・高めに浮いてくるボールは注意。ボールが全部入るくらいでOK。
・打者がどこに立とうがホームベース上の空間で判定する。ホームベースを通過した瞬間に決まる。
・ホームベースにはボールが6個並ぶ＋左右1個分の8個の幅となる。
スロットポジション
・ホームベースのインサイドが身体の中心となる。
・ヒールトゥヒールトゥで、身体が斜めに向かないように軸足をロック。
　（肩を入れすぎないこと）
・リラックスは自由な足から。
　（高校野球のように、インターバルが短い時は軸足を残したままでもよい）
・キャッチャーが邪魔になったら目線を上げる。（左右には動かない）
・フォアコース（外角）を良く見る。
　（投球練習判定では、次の順番の者が外角を見てアドバイスする）
・ボールをストライクということが多いので注意。逆にストライクをボールといわれると、ピッチャーは投げる球がなくなる。
・絶対に目をつぶらないこと。
・ホームベースの5角形のうち、前の4隅の通過を見てから判定する。
・早くてはいけないが、ジャッジまであまり長すぎる、遅すぎるのも良くない。
　（新潟は遅すぎるとの指摘）
・ゲットセットが遅い人がいる。モーションに入ったら止まっている。
　（動かれるとピッチャーも気になる）
・講師から研修生に「ボール」のコールが早い、ボールの時の目切が早い（完全なボールほど）、頭が動くなどの指摘あり。
・キャッチャーに近づきすぎないこと。
　（妨害に注意。良く見ようとすると接近してしまう）
・ホームベースとバッターボックスのラインの間は、フッドボールストライク
　（ラインにかかったらボール）
・キャッチャーが立ち上がった場合→内角肩越しから見る。

※3年間で全県にインストラクターを養成する。
　→富山県の山崎さんインストラクター研修中。今回は特別講師で参加。

1塁フォースプレイ
・送球に対して90°の位置。（4～6m離れる）
・野手の触塁、捕球、打者走者の触塁を見る。
・外に出ると捕球が見えなくなる。

・ピッチャーがベースカバー→塁線付近で触塁を見る。
・2塁～1塁へのダブルプレイ→塁線から30°くらいの角度を取る。
・なぜ観客はフォースプレイがよく見えるか？
→座って止まっている状態で見ているからである。
・ストップが大切、そこからセットする。送球がそれたのを確認したら見える位置にアジャストする。（踏み込んで見る。動いても仕方ない）

3塁フォースプレイ
・コーチスボックス方向に出た方が見やすいと思うが、これについては検討中。
（グラブの腹が見える位置）

2塁タッグプレイ
・基本的にベースパスの内側2面で起こる。（他のベースも同様）
・中に入る位置→ホームベースからマウンド外周への接線の延長戦で1、2塁線から3フィート（1歩）前の位置。
・2塁手側、ショート側どちらでもよい。（2塁にランナーがいる場合は2塁側）
・盗塁→バッターが打たなかった瞬間にステップ開始～4ステップでセット完了
（ショート側は3ステップで間に合う）
・早めにセットしてピントを合わせておく。
・ボールがそれたらタッグが見える位置にアジャストする。
（走者の触塁とタッグの二つが見えればよい）

ランナー1塁でエンドラン～ショートへのゴロ
・ショート側にいた場合はゲッツーをあきらめたショートの1塁送球の妨げにならないように注意。

1塁塁審（ランナーなし）
・2塁手が自分に向かってきたゴロは外に出る（90°）
・1塁へのゴロ→1塁手について行く。

（ゲッツー）
・ショートが送球するまで見ている。
・1塁アウトが先のリバースダブルプレイ→1塁アウトを2塁塁審にも伝達する。
・とにかく慌てないこと。

3塁塁審
・3塁への盗塁は3，4歩中に入る。（入り過ぎないこと。塁線から1歩が目安）
・ゴロのフェア、ファール判定→今年からベースの辺が基準になった。
・ベースに当たった、ベースを超えた、ボールを通過した瞬間に判定する。
・フライは目を切らないこと（特に頭上を越えるフライは注意）

1，2塁で3塁塁審ゴーアウト
・2塁塁審は即スライド。中で3塁でのプレイに備える。

ライン際へのライナー→担当審判は2，3歩追って打球判定。その後戻る。

球審
・3塁線ボテボテのゴロ
→球審がフェア、ファールを判定したら3塁塁審も1塁塁審へ伝達する。
・ゴロのフェアではボールを追いながら腕を出したままキープ（上げ気味）
→他の塁審に知らせるため。

ランスコアの要領
・ホームベースを指さして「ランスコア！」
・ホームベース～マウンド中間に入って本部席に向いて指で1点を表示。

タイムプレイの場合
・ホームベースを指さして「ランスコア！」～「スコア！スコア！」とコールしながら中に入って本部向かって指を立てて「ランスコア！」
・ノーランナーとランナー1塁のみは難しくない。基本を押さえておく。

【ホテルでの座学】（赤井講師）
・規則改正はメジャーの1年後に行う。
・偽投について
1塁への偽投が禁じられているのは、盗塁ができなくなるため。
来年からは3塁への偽投も禁じられる見込み。（今年メジャー改正部分）
（ランナー1，3塁での時間短縮の意味もあるか？）
2塁はそのまま偽投OK。
20秒ルール…警告2回、3回目からボークとなる（同一投手）
・ベンチ前でのキャッチボール
規則通りメジャーではもともとやっていない。
NPB…2軍は今年から禁止。1軍も来シーズンから禁止となる見込み。
高校野球はこれから指導者などを含めて協議する。
・ラフプレイ禁止
キャッチャーがタッグに行くときにひざを折る→やめさせる方向。
（レガースをつけていないつもりでタッグするよう指導する）
・センバツ大会での出来事
準備投球の時点でピッチャーに対しフォームについて注意する場面があった。
投げ終わって初めて反則投球となる。（発見したらコールのみ。ひと段落してからタイム）

【講師自己紹介】
・赤井淳二氏（高野連規則委員長）
もう1期、2年続投となった。
信頼されるアマチュア審判委員になるために
…仕事人として信頼される社会人になること。仕事を大切に。
・堅田外司昭氏（高野連審判委員）
試合前にはいい試合になってほしいと願っている。
うまい審判だけでなく、いい審判になってください。
インターバルでの選手への気遣い、声掛けを忘れない。
・大槻康彦氏（高野連審判委員）
自分では高校野球の経験なし。初めての練習試合では硬球が怖かった。
夏春各10回甲子園経験あり。
これからも切磋琢磨して皆さんと一緒に頑張りたい。
・土井淳宏氏（高野連審判委員）

審判がいなければ野球はできない。選手がいなければ審判はできない。
子供には言葉かけが大切。愛情を持って子供を動かす。

5月19日（日）
【球場での実技】
・準備体操で目のストレッチ（親指を立てて腕を開いて伸ばし、左右、上下、ナナメとトラッキング各5回。遠近もやっておくとよい）
ゲットセット
・塁審のハンズオンニーズと一緒。
（赤井講師によると、セットポジションでもいいのではないか？とのこと）
・モモに力を入れない。足裏に均等に荷重する。
・ケツの穴を後ろに見せる感じで、ふところを作る。
・走者3塁で3塁線のゴロの場合は、右に1歩出てライン確保し打球判定
～タッグの見える位置に移動して、本塁でのタッグプレイに備える。
・ピッチャーに正対する。
・ゲットセットで硬くならない。
ハーフスイングのリクエスト
・2、3歩歩み寄って左手でリクエストする。
走るときはマスクを持っていても腕を振る。
ランダウンプレイ
・ハーフ＆ハーフを担当。さらにその中間で止まって見る。（動かない）
・タッグの瞬間に踏み込んで確認する。
・ラインアウト→「ヒズアウト！」～出た方向を指差す。（腕が下がらないように）
・ラインに近づきすぎない。（コーチスボックスラインまでは離れすぎない）
・空タッグ→「ノータッグ！」＆セーフのゼスチャ。
・「オンザタッグ」は際どいときのみでよい。
塁上の二人のランナーにタッグ
・指差して「ユーセーフ」（先のランナー）、「ユーアウト」（後のランナー）
球審
タイムプレイ（ありうるケースを意識する。予測しておく）
・プレイ、ベースを1直線上で見る。
・ホームベースを指差して「スコア！」～アピールを受けてアウトだったら、「ヒズアウト！」本部席に向かって×サインを出しながら「ノーランスコア！」
バッターとキャッチャーの出会いがしらの接触
・ノーボイスでナッシング（セーフ）のゼスチャ
（盗塁で意図的でなく送球がバットに当たった時も同様）
3塁塁審
・ランナーが回ったらベースの内側が見える場所に移動。
2塁塁審（ランナー2塁）
・レフトフライの場合、3塁側に素早くスライドして2塁のタッグアップ確認。～3塁で待ち受ける。

ピッチャー
・プレートに軸足がかかっていればよい。
ワインドアップ
・自由な足がプレートの前に出てもよいが、最大でかかとがプレート前縁に接していること。
1塁へのけん制
・プレートを外して投げて外に出たら2個の進塁。
・プレートを外さないで投げて外に出たら1個の進塁。
・セットポジションで軸足を外す場合はプレートの後縁線より後ろに外す。

【屋内に移動して、甲子園のDVDを見ながらプレイの解説】
・ファールフライ捕球後、選手がベンチに倒れこんで来たら中の選手が支えてやること。
・場内説明のアナウンスは球審でなくても当該審判でよい。
・アピール権の消滅の時期は必ず確認する。
・クロックワイズは1999年からやっている。十分浸透したのでメカニクスとだけ呼ぶ。
・動きを身体に染み付かせる。
・プレイを傍観しない。
・野手のつもりでボールに反応する。（ポーズ・リード・リアクトでは遅い）
・瞬時に動いて他の審判を見る。
・信頼されるには努力する。
・声とゼスチャは大きく、張りを出す。
・目標を持って少しずつでも伸びていってください。

10　所　　感
このたびはこのような研修の機会を与えてくださり、ありがとうございました。甲子園審判委員の皆様から直接熱い指導をしていただき、本当に実りの多い講習会でした。今回持ち帰ったことを、今後はグランドで発揮できるよう精進いたします。なお、報告の内容で間違いがあるかもしれませんが、気付かれましたら是非ご指摘ください。最後に、笠輪部長、星野指導員をはじめ、一緒に参加した近田さん、桜井さん、小川さんに感謝申し上げ結びとします。

以上